

5 . むすび

今年度は5カ年計画の初年度であり、実質的なスタートは9月からで約半年間の研究期間であったにもかかわらず、「大大特」の目的、地震災害を大幅に軽減する技術基盤の確立、にむけて積極的に研究開発を推進できた。

テーマ 「震動台活用による構造物の耐震性向上研究」では、防災科学技術研究所が現在、兵庫県三木市に建設中の「実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)」を有効に利用するための課題、施設の運営体制の整備、大規模実験研究を実施するにあたっての予備的研究、どのような実験を行うかの計画、実験結果の成果の展開方法、試験体を積載した場合の震動台応答性の事前確認、震動台に入力する地震動、等を解明する実験・研究を実施により、構造物の耐震性向上に関する技術的基盤の確立を目指している。

耐震性向上が必要となる構造物は多種多様である。しかし、現存する研究シリーズ、予算規模、5年間という時間的制約等を考慮して、テーマ では、鉄筋コンクリート建物、地盤・基礎および木造建物を重要課題として取り上げている。これらの実験・研究成果は、中間的な開発成果であっても積極的に公表することにより、研究活動の社会的認知を高め、活性化を図ると共に、構造物の耐震性向上に役立て、地震災害の低減に結びつけていく必要がある。

今年度の実験・解析結果を含めた活動成果の展開として、2003年8月にシンポジウムの開催を予定しており、本テーマに関する意見・知見を広く社会から汲み取りたいと考えている。また、こうした活動を通して、E-ディフェンスの特長を社会にアピールし、実験施設を有効利用できるテーマ提案に繋げていきたいと考えている。

まえがきで述べたように、テーマ の目的は、E-ディフェンスをはじめとする震動台や震動実験専用シミュレータを活用（既存データの活用を含む）して耐震に関する実験・研究を行い、都市構造物の耐震性向上に寄与・貢献することである。次年度以降も、この方針で研究開発を進める。